

平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業 先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート

【基礎データ】					
フリガナ	シンマチスポーツクラブ				
クラブ名	新町スポーツクラブ				
活動地域	都・道 群馬 府・県 市・区 新町・村 全地区				
市区町村の人口	12,755 名	クラブ設立年	2000 年	クラブ会員数	527 名
当該地域の小学校の数と児童数	2 校			726 名	
当該地域の中学校の数と生徒数	1 校			347 名	
主な活動スポーツ種目	陸上・ドッジボール・スキー・バレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボール・剣道・なぎなた・和太鼓・野外活動・クラフト活動・幼児スポーツ 計 13 種目				
フリガナ	アンポ トミオ		クラブでの役職名	会 長	
クラブ代表者名	安 保 富 男				

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	1997年(平成9年度)					
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況						
平成9年度当時の新町のスポーツ環境は、町体育協会は大人の競技団体を中心に組織され、子どもたちが所属する団体はスポーツ少年団に登録している団体以外は横の連携が無く、個々に活動しているために互いの情報交換も無いために子どもたちの団体も連携は皆無の状態であった。						
スポーツ少年団は、県内で唯一、高校生リーダーが存在し地域内でも信頼がある状態であった。						
(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移（学校区別）						
・2000年	区・	名/	区・	名/	区・	名/合計 区・ 432名
・2001年	区・	名/	区・	名/	区・	名/合計 区・ 286名
・2002年	区・	名/	区・	名/	区・	名/合計 区・ 337名
・2003年	区・	名/	区・	名/	区・	名/合計 区・ 450名
・2004年	区・	名/	区・	名/	区・	名/合計 区・ 527名
(4) 活動種目の内容と数						
陸上・ドッジボール・スキー・バレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボール・剣道 なぎなた・和太鼓・野外活動・クラフト活動・幼児スポーツ 計13種目						
(5) 活動圏域（校区等の特徴）						
新町は、面積3.74km ² と県内でもっとも狭い町で人口密度は町として日本一高い町でもある。						
町の東西をJR高崎線と国道17号が走り鉄道を境に北部に第一小学校・南部に第二小学校がある。						
このため、狭い町でも町民の交流は少なく、まして子どもたちの交流の機会は少ない。町の北部に烏川、東側に神流川が流れ、屋外のスポーツ施設の大半はこの河川敷にある。その中で複合少年団として活動しているSVCは、異年齢集団活動が注目されていた。						

(6) 定期的な活動内容
既存団体（ＳＶＣ（複合）スポーツ少年団・ソフトボール少年団・なぎなた・剣道・和太鼓）は、週１回～３回の活動を実施している。 新町スポーツクラブが直轄で運営している「中高校生スポーツ部」は、毎週土曜日にバレーボール・バスケットボール・サッカー・ソフトボールを実施している。
(7) イベント等の不定的な活動の特徴
中学校のナイター設備の活用があまりないことから、夏の夜に全町民「ナイタースポーツフェスティバル」を開催してスポーツの楽しさを体験してもらっている。 テニスプレーヤー「佐藤直子さん」に来てもらい、親子ふれあいテニス教室を実施して幼児や低学年の子どもと保護者のスポーツ体験を実施している。
【3. キーパーソンの属性】
(8) キーパーソン(指導者)の人柄（さらりと特徴的なこと）
創設期当時、新町スポーツ少年団本部長（現在、町教育長）がスポーツ少年団を核にはするが、それだけの狭い発想ではなく、小さい町の中で活動している子どもたちの各種団体に声を掛ける発想をしたことが現在に至っている。また、現会長も長い間、女子ソフトボールの監督として人望も厚くまとめる力が高い人である。事務局長は、複合型スポーツ少年団の指導者として活動し、ドイツのスポーツクラブ関係者とも人脈があり、なおかつ、中高校生リーダーの育成を専門にして活動していたことからスポーツクラブの組織化に適任であった。
(9) なぜ故に総合クラブをつくろうとしたのか
平成９年度に日本体育協会から「総合型地域スポーツクラブ育成モデル地区指定」を受託したことがクラブ育成の発端になった。それまで、「総合型地域スポーツクラブ」という言葉を誰も知らない状態で正直、なにをどのようにして組織化するのか、なにが総合型地域スポーツクラブなのかまったく不明な状態だった。しかし、ＳＶＣスポーツ少年団は、平成４年度からドイツのスポーツクラブを目指してリスタートしていたことから、日本スポーツ少年団の日独同時交流体験者を活用できて、当時個々に活動していた子どもの団体を取りまとめたことからスタートした。
(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか
事務局長は、スポーツ少年団の理念に添った活動を実践し地域の人材育成を実践してきていることから総合型地域スポーツクラブの組織化によって、より一層、スポーツ少年団のリーダー養成システムが地域のスポーツ環境を整える上で重要な位置を占める考えた。

【4. クラブの意思決定機関】	
(11) 創設メンバーの肩書き	会 長：当時の町スポーツ少年団本部長 副会長：既存団体の代表者から2名を選出 運営委員：既存団体の代表指導者と保護者の各1名 顧 問：小中学校長・町教育長 事務局：スポーツクラブについて学習したSVCの代表指導者
(12) いつ、どこで	毎月1回（8月を除く）育成協議会によって意志を決定していた。 育成協議会会場は、町内のコミュニティーセンターを中心に開催した。 この活動は、創設当時から変わっていない。ただし、最近は、イベント開催時にスポーツ少年団リーダー会代表にオブザーバーとして参加してもらっている。
(13) どんな人たちによって	① スポーツクラブ運営委員（委員名簿は、別添資料参照） ② スポーツ少年団リーダー会会長
(14) どんな内容を決定しているのか	① 規約制定及び改定について ② 役員の決定について ③ 事業及び予算決算の審議と決定について ④ 会員証の発行や広報活動について ⑤ その他、臨時に依頼されたイベント事業について
(15) 意志決定をスムーズにするための工夫	定例的に育成協議会を開催していることから、運営委員の間のコミュニケーションが良くなりお互いに悩み事などを相談できる体制になっている。 定例会において、お互いの活動について報告してもらい互いに情報交換している。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数 既存スポーツ団体の代表者と保護者代表・中高校生スポーツ部の代表指導者で運営委員を構成している。中高校生スポーツ部バレーボール部門は、町体育協会に所属している新町バレーボール協会からも運営委員として参加してもらっている。会長は、体育指導員としても活躍していることからクラブと町体育協会とのパイプ役もこなしている。しかし、専属の事務担当職員がいないことが悩みである。
(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと モデル事業の趣旨に添って「スポーツ少年団を核にして・・・」ということで組織化したが、町スポーツ少年団事務局も民間人で運営していることから、子どもが所属する団体間の連携が弱い状態であったことに目をつけて、子どもが所属するすべての団体にクラブの参加を呼びかけて補助金をたくさんの団体で有効に利用することと連携強化に利用した。このことで、クラブ員の減少で悩んでいたクラブがクラブ員募集等で互いにメリットが出る方法にした。また、和太鼓会にも参加してもらったことで活動の幅を広げることができた。無理やりクラブに引き入れることはしない、お互いに自然体でスポーツクラブの組織化を目指すことに配慮した。
(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点） 新町の場合、スポーツ少年団の中に理念に添った型で組織された複合型スポーツ少年団がすでにドイツのスポーツクラブを目指して活動して、スポーツ少年団の特徴でもある人材育成システム活用して育成したリーダーが数多く活動していた。このリーダーをフルに活用できる組織作りとしてまた、中高校生のスポーツ環境を地域サポートできる組織として中高校生スポーツ部を組織化した。 平成16年度から町教育委員会担当者が育成協議会行政アドバイザーとして参画して行政とのパイプが強くなった。また、20才の運営委員と19才の運営委員を加えて組織を見直した。 新町スポーツクラブのイベントにスポーツ少年団のリーダーがいないことは、地域内の大人の指導者も考えられないほど信頼されて活躍している。
(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算） ア) 自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む） 会費: 1家族1年間1000円(入会料のみ) 中高校生スポーツ部については、半年3000円を徴収 イベント時は、参加料を徴収している。 視察団体からの視察料 1人500円を徴収・レンタルプリンター使用料 1枚10円を徴収 収入金: 245万円 現在の自主財源は、予算額全体の約50%にとどまっている。
イ) 財政規模とその主な支出内容 支出内容としては、謝金 85万円・事業参加賞・事務経費等の消耗品費 80万円等 総支出金額 200万円となっている。
ウ) 委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて） 現在、町教育委員会と協議を重ねている。町行政サイドとしては、NPO法人格を早く新町スポーツクラブに取得してもらい、できる業務から業務委託したいという方向で検討が進んでいる。ただし、再来年度に予定されている高崎市との合併問題があるので、高崎市との協議も近い将来あると思う。

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方
クラブの設立目的は、町内の子どもたちが好きな時に好きなスポーツができる環境を構築するとともにクラブから育った人がクラブの指導員やスタッフとして活躍して新町を愛して定着することである。 クラブの理念としては、「スポーツクラブを通して地域を愛する人づくり」になる。 町内の子どものスポーツ団体所属率が低下している現状と体力低下を考えて、スポーツが嫌いにならないように工夫したクラブ運営を実施している。
(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ
最近、新町で実施している大きな事業は、すべて新町スポーツクラブが主催していることから、この1年間で新町内での認知度は高まっている。特に、教育委員会担当者がスポーツクラブについて理解を示していることから、今年は、町体育協会の事業も企画段階からスポーツクラブの会長等運営委員が参加して実施するなどして成果を挙げている。このようなことから、事業の成果を定期的に町広報に掲載してもらえるようになった。地域の人達からも、今年度「幼児・低学年スポーツ教室」を開催してほしい等の要望が届き、現在実施中である。
(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの）
身近な目標として、現在の中高校生スポーツ部をそれぞれの種目で中学生チームと高校生チームを編成して地域のクラブチームとして活躍できるようにしたい。 将来展望としては、町から事業委託を受託して健全財政の中でスポーツと文化活動の両面で地域の人から愛されるクラブ「マイ タウン マイ 新町スポーツクラブ」として定着できるような幅広い活動を継続的に実施できる体制を作り上げたい。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無→有る場合はその概要（住所や所有権など）
クラブハウス:なし 印刷・事務作業所:クラブ員経営の新町ディケアーセンター内 相談室 クラブの用具倉庫:新町第一小学校体育館周辺 倉庫7箇所
(24) 練習・活動拠点→当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)
新町第一小学校体育館・校庭(SVCスポーツ少年団・ソフトボール少年団利用) 新町中学校体育館・校庭(中高校生スポーツ部利用、校庭は、ナイター照明つき) 新町住民体育館(剣道クラブ利用)・児童体育館(なぎなたクラブ利用)・新町公民館(和太鼓会利用) 新町西コミュニティーセンター(育成協議会開催場) 施設は、すべて学校施設と町所有施設
(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）
施設の利用は、比較的に有利に利用させてもらっている。 ただし、どの施設も老朽化のために狭くて危険な箇所があって困っている。

(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数
小学校校庭・体育館(バレーボールコート1面)が各2箇所
中学校校庭・体育館(バレーボールコート2面)1箇所
第二小学校校庭・中学校校庭、ナイター照明つき
住民体育館(バレーボールコート1面)・児童体育館(なぎなたコート1面)
河川敷グラウンド(野球場・ソフトボール場)2箇所・河川敷サッカー場(少年用コート3面)
テニスコート4面が2箇所・芝生の広場1箇所・バーベキュー広場2箇所

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）
第一小学校については、体育館周囲にクラブの用具倉庫を7倉庫おいて、用具についても共同で利用している。中学校については、中高校生スポーツ部において部活動のサポートとして位置づけて活動していることから連携が深い。また、スポーツ少年団リーダーが中学校の生徒会会長等でリーダーシップを発揮していることで学校からの信頼が厚いことでクラブの活動に対しても非常に理解が深い。
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）
町体育協会の内部組織でもっとも連携が深い団体は、バレーボール協会で中高校生スポーツ部のバレーボール部門の指導を担ってくれている。また、クラブ員が経営している老人デイケアセンターの一室を借りてパソコンとレーザーカラープリンターを置かせてもらい双方で活用している。このおかげで資料作りや会議開催、救急法指導研修会等の開催も無料で開放してもらっている。
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因
既存団体間の協力体制は、互いに無理をしないですることだけを協力するスタイルだと思う。また、活動に団体間でメリットがあるとより一層連携が深くなる。また、人材を提供できる団体が手助けを必要とする団体をサポートするシステムがとても好評である。 ともかく、無理をしない、背伸びもしない、でも、挑戦は続けることが大切である。
(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）
総合型地域スポーツクラブを理解していない団体や個人を無理に引き込むことをしない。そして、理解してもらえるようなプログラムを提供して少しずつ理解してもらうことが大切。 会費が無駄なお金と思われたら、自立したクラブになれない。
(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的なメリット
新町の場合は、減少していた既存団体の会員が増加に転じたことが最大のメリットだった。 また、お互いの悩み事を話し合う場所ができたことがとてもよかった。 各団体で中心的に活躍している人達の集団なので、個々がもっても情報も多くそれを活用することで、刺激しあっている。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例

楽しそうなスポーツプログラムの企画と一般の人達から注目されるイベントを開催して会員獲得に役立っている。また、地域でもっともニーズが高い教室を開催することが必要だと思う。中高校生スポーツ教室の開催が代表例だった。指導者確保も地域の人材を発掘する必要がある、地域の中で顔役を見つけてその人の人脈を活用することが大切である。

町の広報の活用が、地域内の認知度のバロメーターになっている。

(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）

強引な会員・指導者獲得方法は、絶対にやっていけない。

会費のメリットが見えない運営方法もスポーツクラブを創設期にやって失敗した。

(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容

実施した事業:佐藤直子さんの親子ふれあいテニス教室・体力テスト&クリスマス会・ナイタースポーツフェスティバル・中高校生スポーツ部の運営

実施を予定している事業:幼児スポーツ教室・小学生向けのバレーボール教室とバスケット教室

(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）

今まで実施した事業は、いずれもイベント型で町民にスポーツクラブの存在を知ってもらう事業であった。その結果、町教育委員会や町民にも多少、認知されてきている。特に、スポーツ少年団リーダーの存在を多くの人達に知ってもらうことで、リーダー自身も「スポーツユースボランティア」としての自覚が芽生え、地域からも信頼されていることが大きな成果の一つである。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い

創設期は、既存団体の「連合体組織」であったが、現在はクラブ直轄運営の中高校生スポーツ部があることから多少は、クラブ組織らしくなった。また、事務局体制も1人から3人として会員証の発行等ができるようになった。

(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由

既存団体の協力体制の確立と中学部活動のサポートとして始めた中高校生スポーツ教室(現在は、スポーツ部)の成功が大きい。また、新町の最大の特徴と武器になっているスポーツ少年団リーダーの活用も成功要因である。自分の町の現状認識と特徴をクラブ運営側がしっかりと認識して、運営することが大切だと思う。

(38) 成功したと思われる決定的な要因

スポーツクラブ運営委員の協力体制(既存団体の協力体制にもつながる。)

地域の特徴を見出して、それを最大限生かす。

学校と連携して、スポーツクラブの活動に理解と協力をしてもらう。

会員にスポーツクラブの活動が「楽しいスポーツ」であることを印象つける。

(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか

しっかりと活動しているスポーツクラブへの継続的な支援活動(今回のような支援が終了後の支援方法の確立)が大切。現在の日本経済では、企業からの協賛金もあまり期待できず、会員の財布も寂しい時に安価で楽しいスポーツプログラムを提供できる環境づくりを期待している。

totoの販売をしっかりと運営しているスポーツクラブに委託できる大切も検討してもらいたい。

「蛇口がなければ水は使えない」現在のtotoの売り上げ減少はまさしくこの状態だと思うので蛇口としスポーツクラブを活用してもらいたい。

(40) 現在、悩んでいること、困っていること

悩み事は、正直、毎回、毎日のように沸いてくることが実態。

特に、新町はクラブハウスがないことと専任の事務担当がいなかったことが最大の悩み事になっている。

事務職員の雇用方法で厚生労働省等からの対策予算等があったら指導してほしい。

ご協力、ありがとうございました。